

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における  
藤木小学校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 藤木小学校 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均をやや下回っているが、本市の平均は上回っている。話すこと・聞くことは平均を上回っているが、読むことの定着が不十分であるため、まず文章を読むことや要点をまとめることに慣れさせる。また、今後は読書量を増やす必要がある。
	よくできた問題	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する問題では、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	故事成語の使い方として適切なものを選択する問題では、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っているものの、記述式の問題での無解答率が高かった。
	よくできた問題	質問の意図を捉え、ねらいとして適切なものを選択する問題では正答率が高かった。
	努力が必要な問題	立場を明確にして、質問や意見を述べる問題では、正答率が低かった。

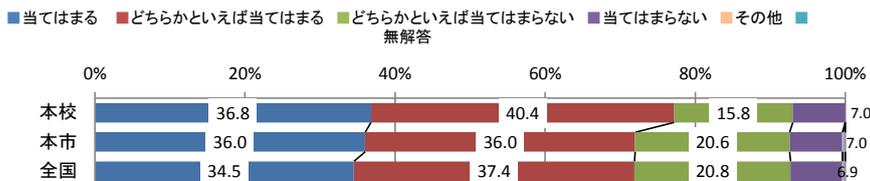
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っていた。数量や図形についての知識・技能が高まった。無解答がほとんどなかった。
	よくできた問題	繰り上がりのある加法の計算や異分母分数の加法の計算の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	単位量あたりの大きさを求める問題での正答率が低く、無解答率も高かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っており、数量や図形についての知識・理解が高まってきた。活用する力を高めることが課題である。
	よくできた問題	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題では、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題での正答率が低く、無解答率も高かった。

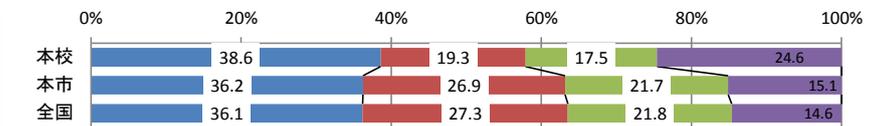
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

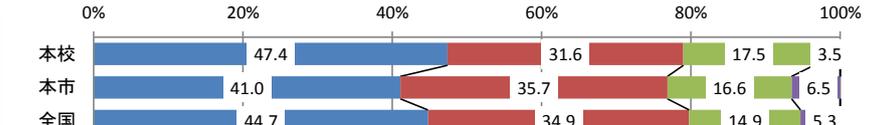
45
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



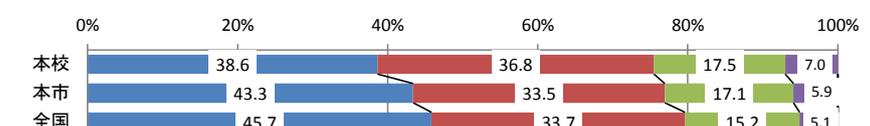
46
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



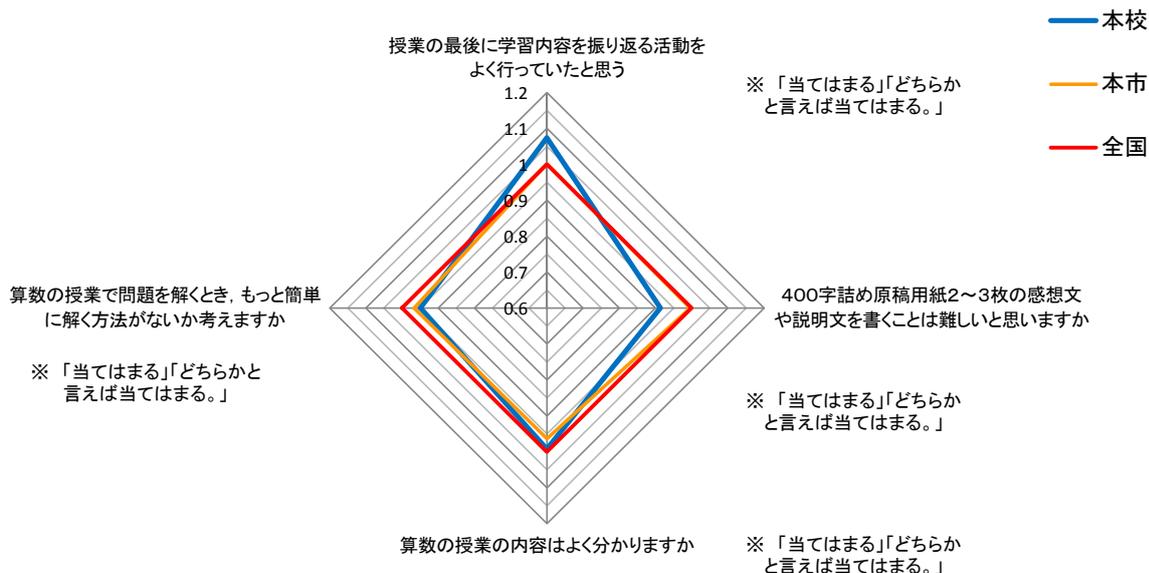
64
算数の授業の内容はよく分かりますか



69
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

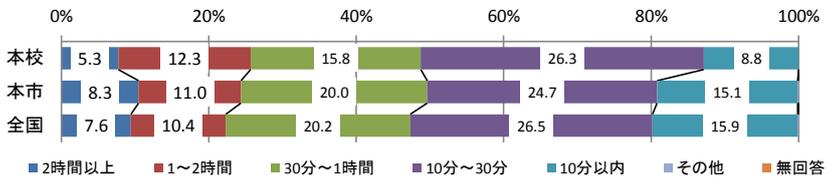
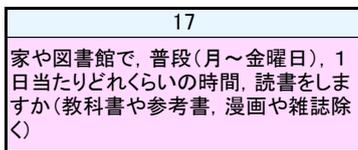
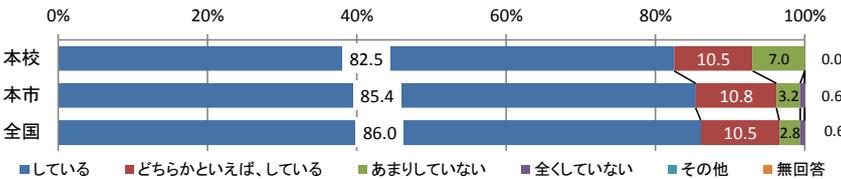
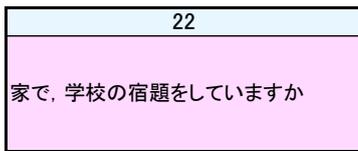
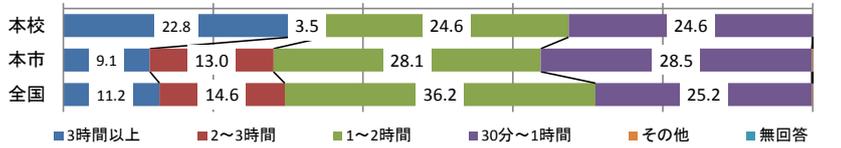
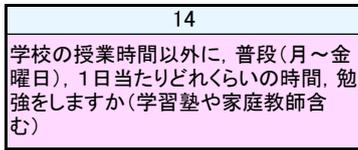
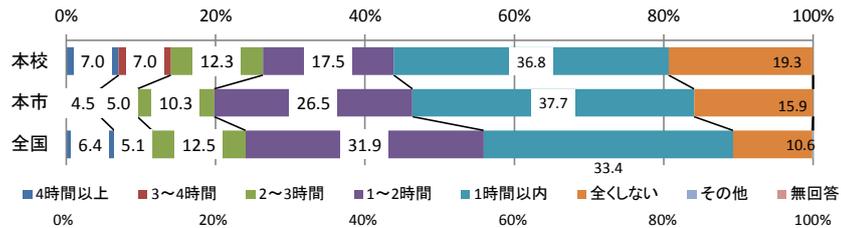
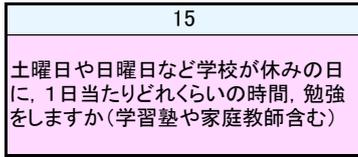
・授業では、はじめにめあてが明確にされており、授業の最後には振り返りの活動がなされていることが分かる。このような授業展開がなされることで、学習の定着が図られていると考えられる。

・算数の授業の内容はよく分かるという児童の割合が高い。授業の中で分からないことがあると、友達や家の人に聞いたり、自分で調べたりする児童が多く、分からないことをそのままにしないで解決していく姿勢が身に付いてきている。

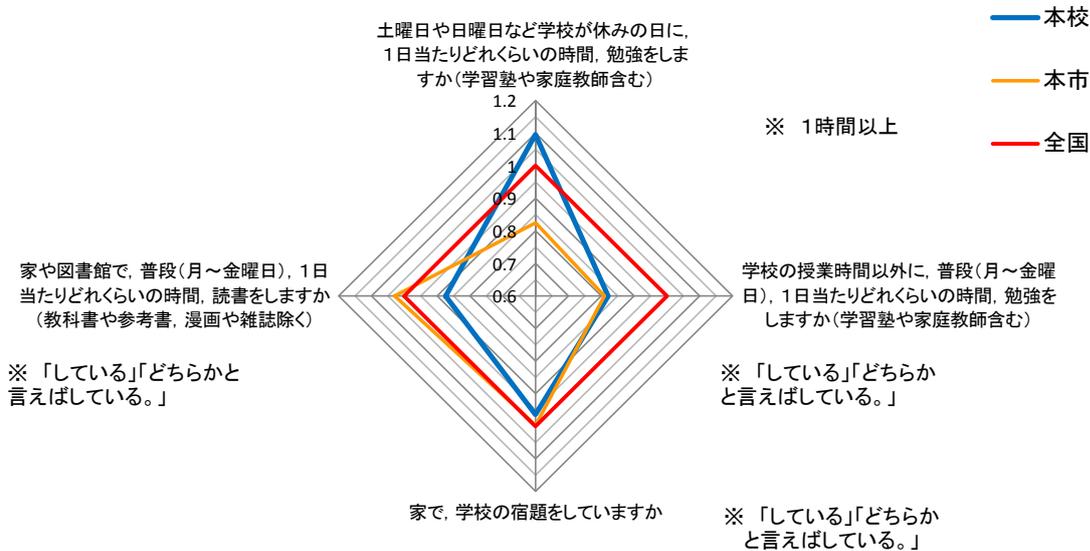
・400字詰め原稿用紙に感想文や説明文を書くことを難しいと感じている児童が多い。授業に中で感想を書く活動を取り入れ、書くことの抵抗をなくしていくようにする。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

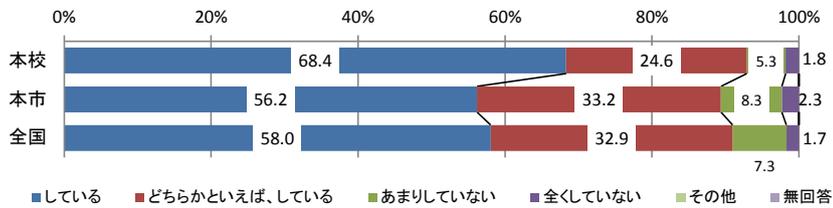


### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

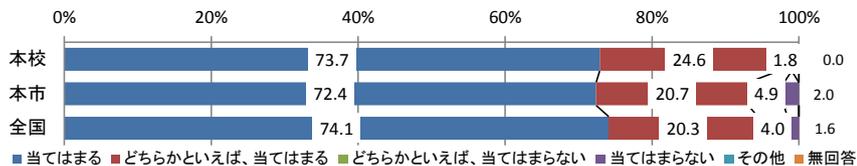
- ・家で学校の宿題をしている児童の割合が高い。学校の学習時間以外に普段1日に3時間以上学習する児童の割合が高い。土曜日や日曜日など休みの日の1日当たりの勉強時間の長い児童が多い。
- ・家庭学習は与えられた課題や宿題をすることが多く、自分で計画を立てて勉強するまでには至っていない。家庭での学習の仕方について指導をしていく必要がある。
- ・読書をする児童の割合も高く、わずかな時間でも読書をする姿がうかがえる。読書活動を通して、様々な種類の本に触れ、内容を理解しながら読ませることが大切である。

④ 生活習慣等に関する調査結果

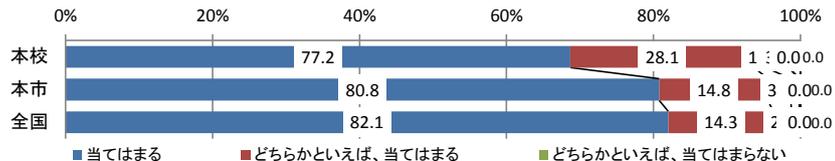
3  
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



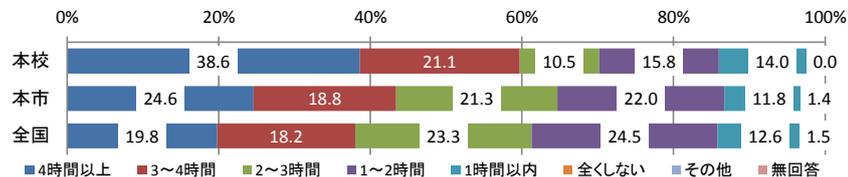
36  
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



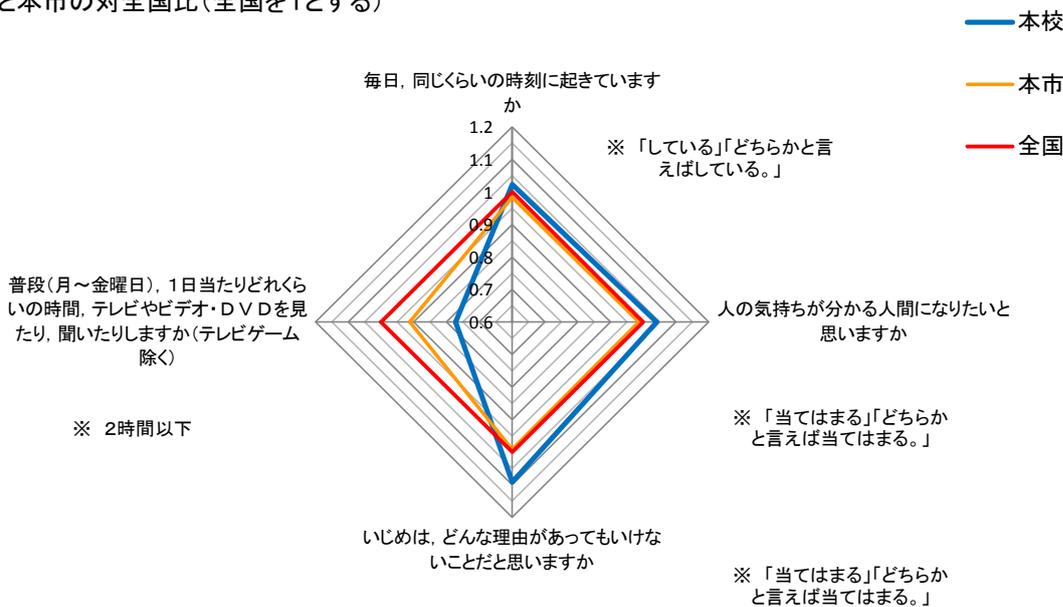
37  
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11  
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・朝決まった時刻に起きる、夜決まった時刻に寝るという児童の割合が高く、規則正しい生活習慣が身に付いていることが分かる  
 ・1日にテレビやDVDを4時間以上見たり聞いたりするという児童がとて多い。テレビの見過ぎについては指導の必要がある。  
 ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと感じている児童の割合が高い。人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童が多いためであると考えられる。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎朝学習の音読や視写、漢字練習や計算練習などを継続的に行うことで、基礎的基本的な力を身に付けさせるようにする。  
・放送委員会が昼の放送で、音読・暗唱の取組を行い、各学級の児童数名が、練習した「ひまわり」の音読・暗唱を披露する。  
◎各学年に応じた家庭学習の時間を示したり、学習の仕方を知らせたりすることにより、自ら学ぶ力を身に付けさせるようにする。  
○授業の中で自分の考えを書く活動や友達と意見を交流するような活動を多く取り入れ、書く・話す・聞く活動が抵抗なく行えるようにする。自分の考えを書くノート指導の徹底を図る。  
○読むことの楽しさや読み取る力を付けるため、読書活動の充実を図る。読書の幅が広がるよう、児童が互いに本を推薦しあったり、読後の感想を知らせあったりするような活動を多く取り入れるようにする。  
・ブックヘルパーの協力により、図書館を常時開館するとともに、ボランティアによる読み聞かせやおすすめの本紹介の掲示板を通して、本に親しむ環境づくりを行う。  
○学ぶ楽しさや有用感が味わえるような授業改善を行う。  
◎第5学年を対象に藤木アフタースクールを開設し、児童が主体的に学べる学習の場づくりを行う。担任だけでなく、管理職や主幹教諭、少人数担当などが指導にあたる。  
◎小中連携の取組から、第6学年を対象に、中学校生徒会の生徒が学習を教えに来るという小中交流学习会を行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学校の宿題を家庭できちんとやることを通して、家庭での学習習慣がきちんと身に付くように指導する。  
○自分で計画を立てて自主的に学習ができるよう、宿題だけでなく自主学習の内容や学習の仕方を知らせ、子ども達が自分の興味関心に沿って、さらに発展的に学習に取り組めるようにする。  
◎テレビやビデオ、DVD、ゲームなどの時間を見直すため、毎月のノーテレビ・ノーゲームの日、ケータイ電源10時OFFを家庭に啓発する。  
◎学校通信や保健だより、食育だより等を通して、健康的な生活が送れるよう保護者に呼びかける。特に、早寝・早起き・朝ご飯の効用を知らせ、理解と協力を求めていく。  
◎家庭学習チャレンジ週間を1, 2学期末に1週間ずつ設定し、家庭学習習慣の定着の強化を図る。家庭学習の時間を確保するため、学年の発達段階や児童の実態に応じた課題を提示する。  
・家庭学習の仕方を掲示板に貼り、家庭学習の定着や意欲化を図る。  
・家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、家庭学習の仕方を知らせるとともに、定期的にチェックし家庭への啓発を図る。